令 和 4 年 度

（令和３年度実績）

食肉衛生検査業務概要

鹿児島市食肉衛生検査所

はじめに

鹿児島市食肉衛生検査所の業務につきましては、日頃より格別のご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

３年目を迎えた新型コロナウイルス感染症は未だ猛威を振るっておりますが、少しずつ経済活動が再開され始めております。畜産業界においても、和牛価格の上昇、食肉輸出量の回復など小幅な動きがみられます。

２６年ぶりに発生した豚熱については、昨年３月中国地方において野生イノシシの感染が確認され、九州各県への緊張感が高まっています。近隣諸国ではアフリカ豚熱、口蹄疫が継続的に発生しており、国内への侵入リスクも高まっています。当所においても関係機関との連携を強化するとともに、と畜場への防疫及び衛生指導を実施し、と畜場を介した疾病の蔓延防止に努めてまいります。

昨年６月に「食品衛生法等の一部を改正する法律」が完全施行され、全ての食品等事業者にＨＡＣＣＰに基づく衛生管理が義務付けられ、これに伴ってと畜場ではと畜検査員による外部検証の実施を行っています。当所では引き続き、外部検証を通してと畜場設置者への積極的な指導・助言を行うとともに、ＨＡＣＣＰシステムの継続的な改善に取り組み、食肉の衛生水準向上を図って参ります。

今後も最新知識の習得や検査技術の向上に努めるとともに、と畜検査による疾病の排除、と畜場に対する衛生監視指導、残留有害物質のモニタリング検査や微生物汚染実態調査等を実施し、より一層の食肉の安心・安全の確保に取り組んでまいります。

ここに令和４年度食肉衛生検査業務概要（令和３年度実績）を取りまとめましたので、ご高覧いただければ幸いに存じます。

令和４年９月

鹿児島市食肉衛生検査所長

井上　睦夫

目　　次

第１章　検査所の概要

１　沿革　・・・・・・・・　１
２　所在地　・・・・・・・・　２
３　組織機構　・・・・・・・・　３
４　職員構成　・・・・・・・・　３
５　事務分掌　・・・・・・・・　３
６　検査手数料等　・・・・・・・・　４
(1)　と畜検査手数料
(2)　と畜場使用料・とさつ解体料
７　食肉衛生検査所管理棟平面図　・・・・・・・・　５、６
８　主要検査機器　・・・・・・・・　７
９　鹿児島食肉センターの概要　・・・・・・・・　８

第２章　と畜検査業務の概要

１　と畜検査頭数
(1)　年度別と畜検査頭数　・・・・・・・・　９
(2)　年度別と畜検査頭数の推移　・・・・・・・・　９
(3)　月別と畜検査頭数　・・・・・・・・　１０
(4)　月別と畜検査頭数の推移　・・・・・・・・　１０
(5)　出荷地別と畜検査頭数　・・・・・・・・　１１
(6)　豚の湯剥ぎ、皮剥ぎの推移　・・・・・・・・　１１
２　と畜検査に基づく廃棄処分措置
(1)　とさつ禁止又は廃棄の疾病別頭数　・・・・・・・・　１２
(2)　年度別全部廃棄頭数の推移　・・・・・・・・　１３
(3)　牛の全部廃棄状況　・・・・・・・・　１４
(4)　豚の全部廃棄状況　・・・・・・・・　１５
３　精密検査実施状況
(1)　枝肉の拭き取り検査　・・・・・・・・　１６
(2)　抗菌性物質の残留検査　・・・・・・・・　１６
(3)　BSE(牛海綿状脳症)の検査　・・・・・・・・　１７
４　輸出食肉に係る業務　・・・・・・・・　１７
５　その他
衛生講習会　・・・・・・・・　１８

第３章　調査研究、研修等

１　調査研究部会　・・・・・・・・　１９
２　職員の技術研修等　・・・・・・・・　１９

第１章 検査所の概要

１．沿　革

明治 42 年 7 月	『鹿児島市営と畜場』を鹿児島郡伊敷村字松木川原に設置
大正 9 年 10 月	伊敷村の一部合併により経営権を伊敷村へ移譲
大正 13 年 7 月	と畜場を伊敷村下伊敷 557 - 2 に移転し、名称を『伊敷村営屠場』へ
昭和 25 年 10 月	伊敷村との全面合併により、経営権を鹿児島市へ移行 と畜検査業務は保健所公衆保健課が所管
昭和 32 年 10 月	と畜場を郡元町 2411（現：新栄町 22-34）に移転
昭和 34 年 10 月	機構改革により所管を中央保健所公衆保健課から中央保健所公衆衛生課へ変更
昭和 46 年 10 月	中央保健所公衆衛生課に食肉検査係を新設
昭和 50 年 2 月	試験検査室の新築
昭和 53 年 2 月	病畜棟の新築、検査員事務室の増築
平成 4 年 4 月	食肉検査係から食肉検査課に昇格
平成 8 年 4 月	鹿児島市が中核市へ移行
平成 8 年 10 月	と畜場を新栄町 22-34 から下福元町 7852 に移転
平成 9 年 4 月	食肉検査課から食肉衛生検査所へ改称
平成 11 年 1 月	と畜場が対香港輸出豚肉取扱施設として認定
平成 12 年 4 月	機構改革により環境局中央保健所食肉衛生検査所から 健康福祉局保健所食肉衛生検査所へ変更
平成 15 年 4 月	と畜場を民営化し、名称を『鹿児島食肉センター』へ
平成 19 年 2 月	試験検査室等の増築
平成 22 年 4 月	と畜場が対タイ輸出牛肉取扱施設として認定 と畜場が対マカオ輸出牛肉取扱施設として認定
平成 26 年 9 月	と畜場が対ベトナム輸出牛肉取扱施設として認定
平成 30 年 8 月	と畜場が対ミャンマー輸出牛肉取扱施設として認定
平成 30 年 10 月	と畜場が ISO22000 を取得
令和 2 年 2 月	と畜場が対ベトナム輸出豚肉取扱施設として認定

２．所在地

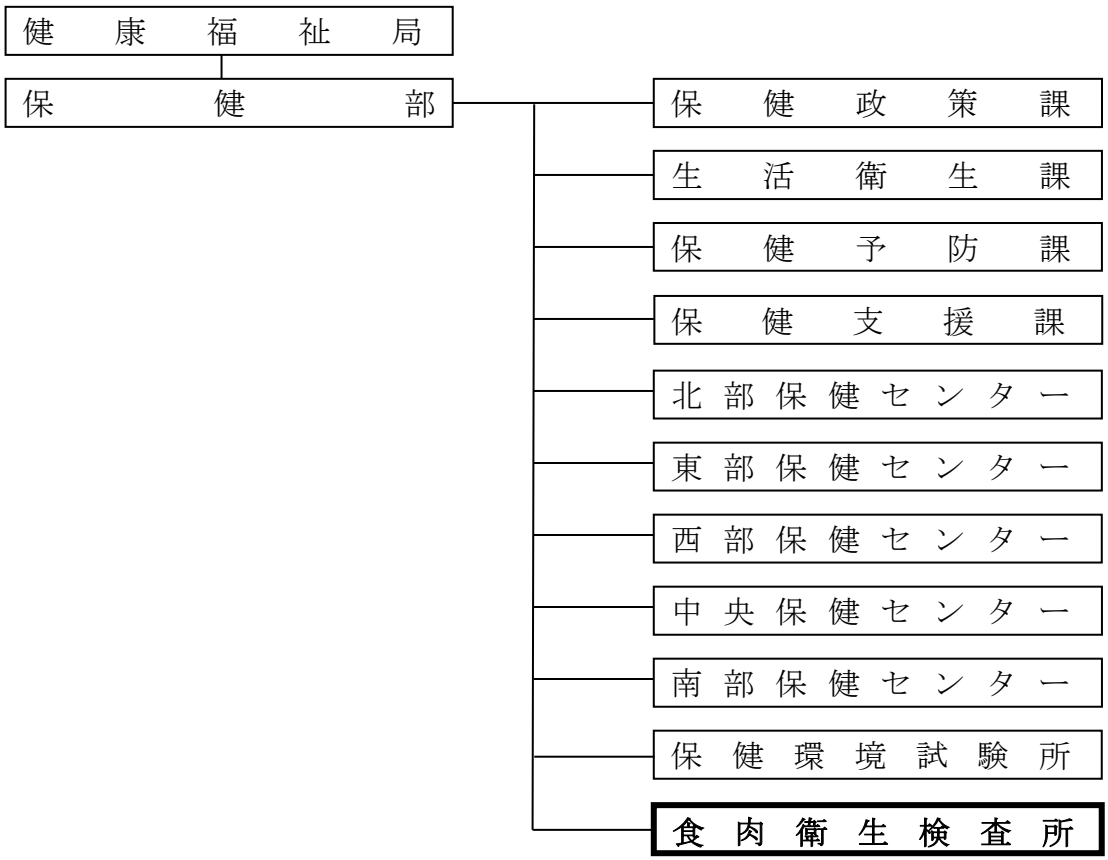
名　　称　鹿児島市食肉衛生検査所（鹿児島食肉センター内）
郵便番号　８９１－０１４４
住　　所　鹿児島市下福元町７８５２
電　　話　（０９９）２６２－２１１６
ＦＡＸ　（０９９）２６２－４９４０
ｅｍａｉｌ　syokuniku@city.kagoshima.lg.jp

アクセス方法

①電車を利用
ＪＲ鹿児島中央駅より、ＪＲ指宿枕崎線「指宿行き」に乗車、ＪＲ五位野駅で下車
ＪＲ五位野駅から鹿児島食肉センターまでタクシーで約５分、徒歩で約２０分

②航空を利用
鹿児島空港よりバス利用の場合
高速バス（直行便）でＪＲ鹿児島中央駅まで約４０分　その後電車を利用

３．組織機構



４．職員構成

令和３年４月１日現在

職　名	所長	主幹	主査	主任	獣医師	主任	会計年度任用職員		合計
職　種	獣　医　師					事務	補助員	事務	
人　数	１名	１名	５名	６名	１名	１名	10名	１名	26名

５．事務分掌

鹿児島市組織及び事務分掌等に関する規則（抜粋）

(1)　と畜場法に基づくと畜検査及び衛生指導に関すること。
(2)　食品衛生法に基づく監視指導、収去・検査及び措置に関すること。
　（他の所掌に係るものを除く。）
(3)　手数料の収納に関すること。
(4)　公印の保管に関すること。
(5)　その他所に属する軽易な庶務に関すること。

食鳥検査については、市保健所生活衛生課食品衛生係が所掌し、指定検査機関の公益財団法人鹿児島市獣医公衆衛生協会に検査業務を委任している。

６．検査手数料等

（１）と畜検査手数料

（1 頭あたりの料金）

区　　分	時間内	時間外
牛・馬	760 円	1,520 円
子牛・子馬	380 円	760 円
豚	350 円	700 円
乳とく・めん羊・山羊	170 円	340 円

平成 19 年 4 月 1 日から適用

（２）と畜場使用料・とさつ解体料

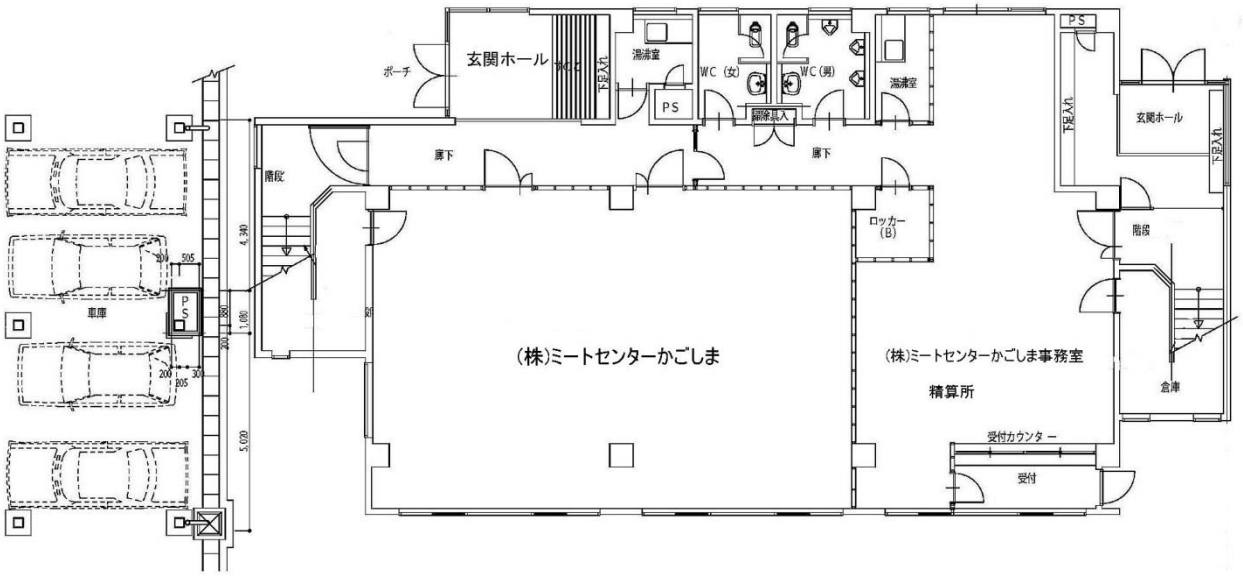
（1 頭あたりの料金）

区　　分				時間内	時間外
と畜場使用料	牛・馬			2,244 円	3,366 円
	子牛・子馬			1,122 円	1,683 円
	豚	皮剥ぎ		1,122 円	1,683 円
		湯剥ぎ		1,265 円	
	乳とく・めん羊・山羊			242 円	363 円
とさつ解体料	牛・馬			5,286 円	8,597 円
	子牛・子馬			3,258 円	6,996 円
	豚	普通	皮剥ぎ	705 円	3,503 円
			湯剥ぎ		
		大豚	皮剥ぎ	（機　械）　1,453 円	
				（手剥ぎ）　1,879 円	4,678 円
			湯剥ぎ	1,453 円	
	乳とく・めん羊・山羊			1,602 円	5,340 円

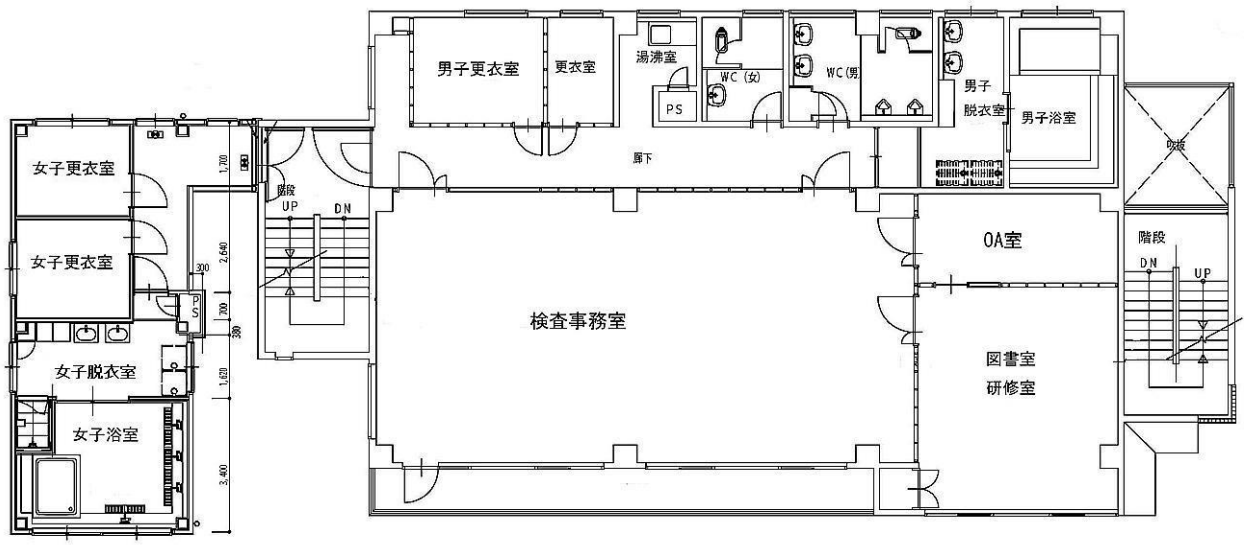
令和元年 10 月 1 日から適用

７．食肉衛生検査所管理棟平面図

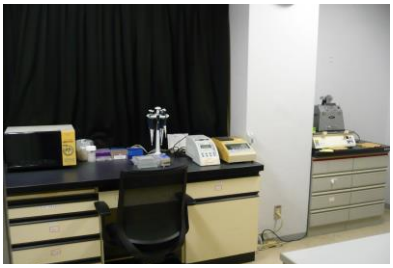
管理棟　１階

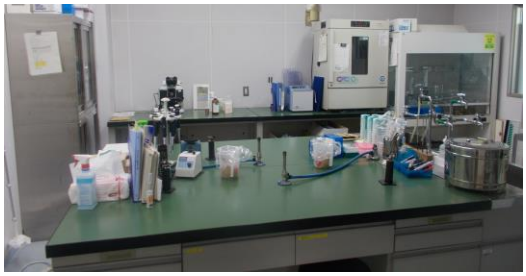


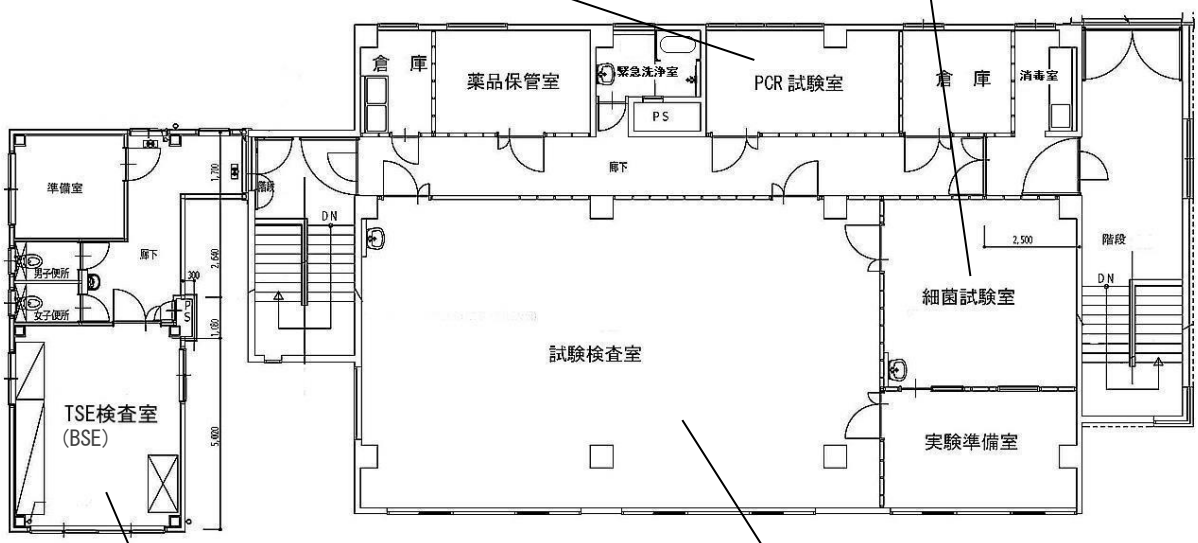
管理棟　２階



管理棟　３階






倉　庫
薬品保管室
緊急洗浄室
PS
PCR 試験室
倉　庫
消毒室
廊下
準備室
廊下
男子便所
女子便所
DN
DN
2,500
階段
細菌試験室
試験検査室
TSE検査室
(BSE)
実験準備室

８．主要検査機器

微生物検査関係	乾熱滅菌器	インキュベーター	ミキサー
	マグネットスターラー	高圧蒸気滅菌器	実体顕微鏡
	位相差顕微鏡	嫌気培養器	ディープフリーザー
	高速冷却遠心機	ディスカッション顕微鏡	保冷庫
	冷蔵ショーケース	バイオクリーンベンチ	試験管攪拌器
	ストマッカー	電気泳動装置	電気泳動ゲル撮影装置
	湯煎器	ＤＮＡ増幅装置	紫外線照射装置
	アルミブロック恒温槽	安全キャビネット	微量電子天秤
	卓上型ドラフト		

理化学検査関係	超音波洗浄機	インキュベーター	高速液体クロマトグラフシステム
	電子分析天秤	水分測定器	ロータリーエバポレーター
	ｐＨメーター	アスピレーター	分液ロートシェーカー
	卓上型生化学検査システム	超高速ホモジナイザー	ピペット洗浄器

病理検査関係	自動固定包埋装置	病理組織検査用顕微鏡システム	パラフィン包埋ブロック作成装置
	クリオスタットミクロトーム	組織固定用振とう器	パラフィン伸展器
	滑走式ミクロトーム		

ＢＳＥ検査関係	マイクロプレートリーダー	試験管撹拌機	組織・細胞破砕装置
	マイクロプレートウォッシャー	インキュベーター	高速冷却遠心機
	安全キャビネット	アルミブロック恒温槽	電子天秤
	ディープフリーザー	冷蔵ショーケース	

９．鹿児島食肉センターの概要

（１）敷地面積　29,846.61 ㎡　(9,044 坪)

（２）建築面積　11,076.96 ㎡

（３）延床面積　14,461.16 ㎡

・本　　館　　棟　　12,353.78 ㎡

（㎡）

		大動物	小動物	共　用	合計
とさつ解体施設	係留バース			1,740	7,233
	係留施設	369	958		
	と室・解体室	323	926		
	内臓処理室	144	264		
	休憩室・工作室・廊下等			2,509	
冷蔵室		205	257		462
部分肉処理加工施設		929	1,985	824	3,738
共用施設（冷凍機械室、医務室等）				920	920
合計		1,670	4,690	5,993	12,353

・管　　理　　棟　　967.60 ㎡
・病　　畜　　棟　　262.50 ㎡
・廃棄物処理棟　　420.00 ㎡
・受　水　槽　棟　　75.56 ㎡
・汚　水　処　理　棟　　381.72 ㎡

（４）処理能力

	大　動　物	小　動　物
けい留所収容	57 頭	1,000頭
とさつ・解体	80 頭／日	1,300頭／日
懸肉・予冷		1,300頭／日
冷却・冷蔵	200頭	1,900頭 （部分肉処理加工施設含む）
部分肉処理加工	45 頭／日	400頭／日

第２章　と畜検査業務の概要

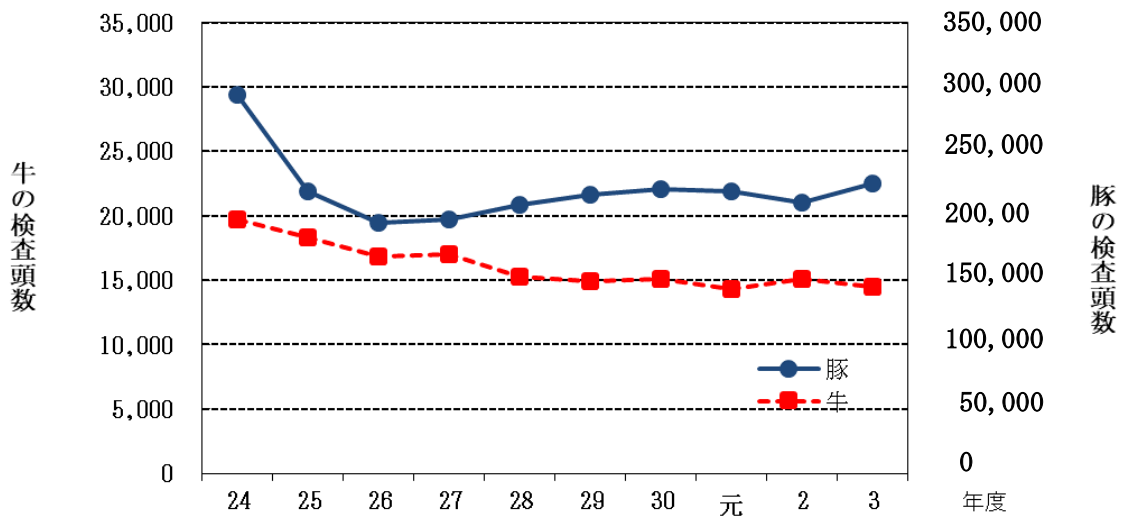
1.　と畜検査頭数

（１）年度別と畜検査頭数

	牛		子牛		馬		豚		合計
	時間内	外	時間内	外	時間内	外	時間内	外	
24年度	19, 543	105	20	3	2	0	294, 017	32	313, 722
25年度	18, 191	90	6	0	0	0	219, 180	36	237, 503
26年度	16, 719	101	14	3	0	0	194, 150	21	211, 008
27年度	16, 846	109	12	2	0	0	196, 935	35	213, 939
28年度	15, 131	102	3	0	0	0	208, 772	28	224, 036
29年度	14, 840	85	10	1	0	0	215, 869	28	230, 833
30年度	15, 015	91	6	0	0	0	220, 662	23	235, 797
元年度	14, 244	91	4	0	0	0	219, 002	11	233, 352
2年度	14, 950	105	7	0	0	0	210, 511	11	225, 584
3年度	14, 327	120	16	2	0	0	225, 328	20	239, 813
	14, 447		18		0		225, 348		
	14, 465				0				

注）子牛は生後１年未満の牛をいう。

（２）年度別と畜検査頭数の推移

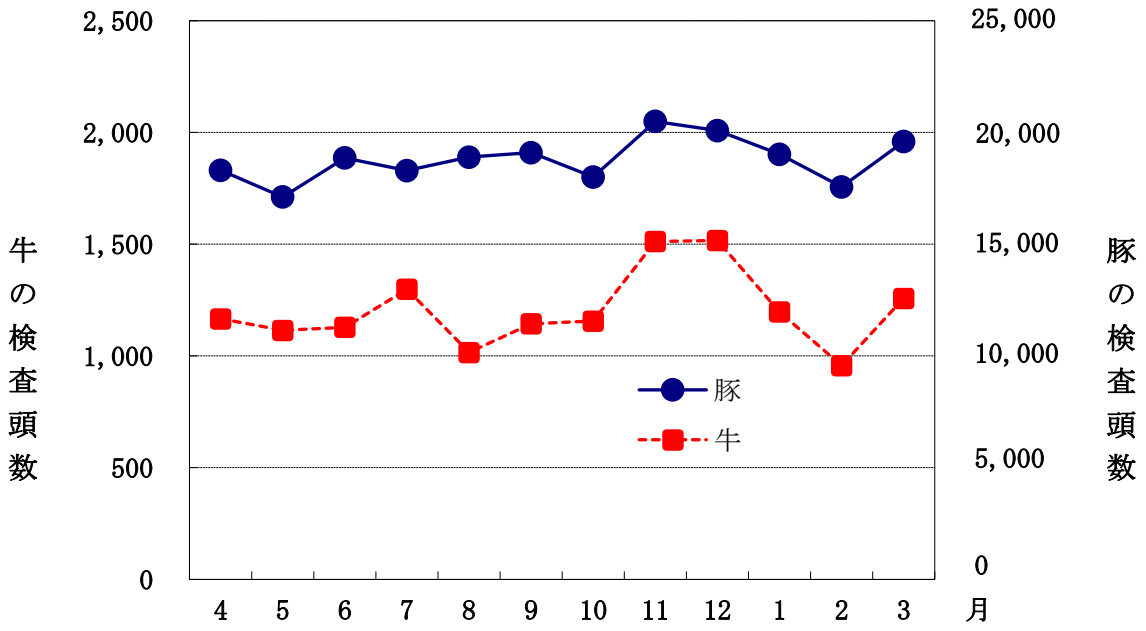


注）平成 25 年度は、豚の大手出荷者の撤退により大幅減となった。

（３）月別と畜検査頭数

	牛		子牛		豚		合計
	時間内	外	時間内	外	時間内	外	
4 月	1, 146	16	4	0	18, 309	0	19, 475
5 月	1, 104	11	0	0	17, 110	1	18, 226
6 月	1, 121	6	0	1	18, 861	2	19, 991
7 月	1, 292	6	1	0	18, 294	1	19, 594
8 月	1, 004	11	1	0	18, 895	4	19, 915
9 月	1, 135	9	0	0	19, 099	1	20, 244
10 月	1, 135	18	3	0	18, 002	4	19, 162
11 月	1, 502	9	1	0	20, 490	1	22, 003
12 月	1, 511	3	2	1	20, 088	1	21, 606
1 月	1, 186	9	2	0	19, 025	1	20, 223
2 月	945	11	1	0	17, 567	1	18, 525
3 月	1, 246	11	1	0	19, 588	3	20, 849
合計	14,327	120	16	2	225,328	20	239, 813

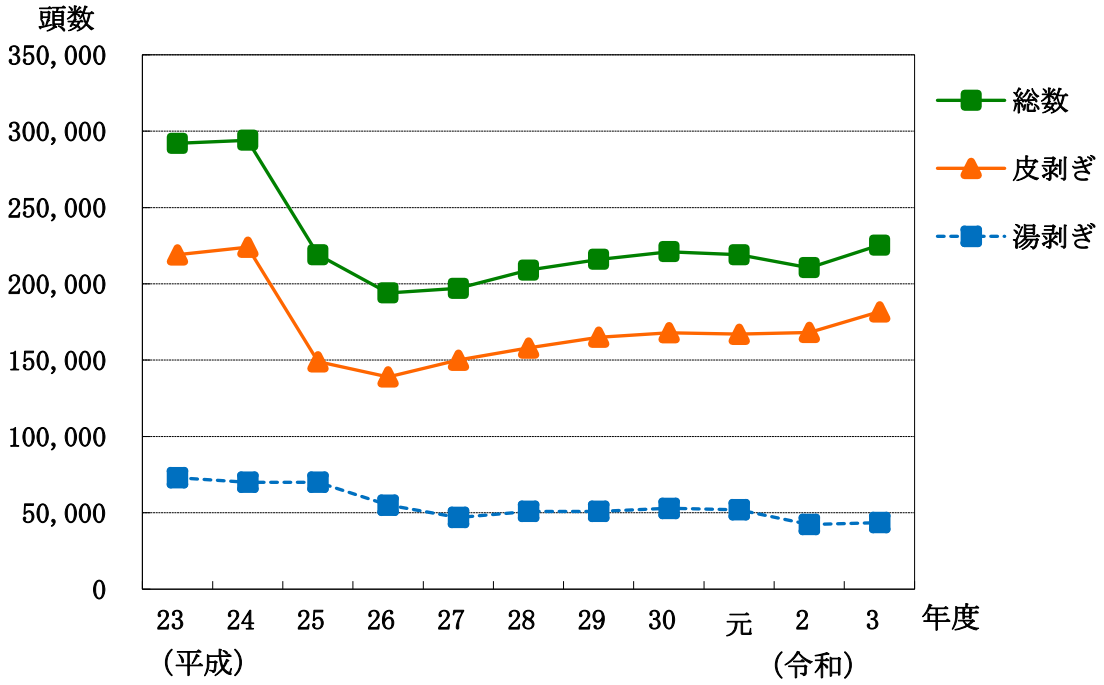
（４）月別と畜検査頭数の推移



（５）出荷地別と畜検査頭数

	牛の出荷地							豚の出荷地	
	和牛	乳牛		その他	子牛	総数	%	豚	%
		雌	雄						
鹿児島地区	505	24	0	1	1	531	3.7	134	0.1
指宿地区	1,190	2	0	402	1	1,595	11.0	18,426	8.2
川辺地区	1,031	56	0	242	4	1,333	9.2	57,929	25.7
日置地区	758	20	0	49	4	831	5.7	0	0.0
薩摩地区	914	4	0	630	1	1,549	10.7	21,006	9.3
出水地区	1,017	5	0	0	0	1,022	7.1	9,100	4.0
伊佐地区	447	125	0	379	1	952	6.6	3,959	1.8
姶良地区	270	81	0	214	4	569	3.9	7,365	3.3
曽於地区	427	33	0	146	0	606	4.2	37,012	16.4
肝属地区	2,235	112	0	10	1	2,358	16.3	37,323	16.6
熊毛地区	46	2	0	0	0	48	0.3	300	0.1
大島地区	7	0	0	0	0	7	0.0	325	0.1
宮崎県	801	673	0	378	0	1,852	12.8	24,916	11.1
熊本県	209	186	1	91	0	487	3.4	7,553	3.4
その他	229	184	0	311	1	725	5.0	0	0.00
合計	10,086	1,507	1	2,853	18	14,465	100	225,348	100

（６）湯剥ぎ、皮剥ぎ頭数の推移（豚）



２．と畜検査結果に基づく措置

（１）とさつ禁止又は廃棄の疾病別頭数

種別	と畜場内とさつ頭数	処分内容	処分実頭数		疾病別頭数																							
					細菌病								ｳｲﾙｽ		寄生虫病			その他の疾病										合計
			頭数	%	炭疽	豚丹毒	サルモネラ症	結核病	ブルセラ病	破傷風	放線菌病	その他	豚コレラ	その他	のう虫病	ジストマ病	その他	膿毒症	敗血症	尿毒症	黄疸	水腫	腫瘍	中毒諸症	炎症又は炎症産物による汚染	変性又は萎縮	その他	
牛	14,447	禁止																										
		全部廃棄	115	0.80								1		54				7	13	16	5	15	3			1		115
		一部廃棄	13,271	91.86												13							1		10,784	1,565	908	13,271
子牛	18	禁止																										
		全部廃棄	1																			1						1
		一部廃棄	18	100.00																					14		4	18
豚	225,348	禁止																										
		全部廃棄	619	0.27		45	7											283	217	9	8	41	3			6		619
		一部廃棄	137,329	60.94																			9		129,010	1,827	6,483	137,329
合計	239,813		151,353			45	7							54		13		290	230	25	13	57	16		139,808	3,399	7,395	151,353

（２）年度別全部廃棄頭数の推移

牛

疾病＼年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
膿毒症	5	7	4	9	10	10	9	7
敗血症	11	8	10	3	11	12	13	13
尿毒症	2	2	9	6	13	13	11	16
高度の黄疸	4	4		4	7	6	3	5
高度の水腫	20	11	12	8	7	7	9	16
腫瘍	3		1	5	8	3	5	3
変性又は萎縮	1	2		1	3	3	1	1
牛伝染性リンパ腫	27	28	17	33	56	43	29	54
その他				1				1
計	73	62	53	70	115	97	80	116

豚

疾病＼年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
膿毒症	191	231	283	361	400	481	311	283
敗血症	96	75	80	151	306	205	163	217
尿毒症	6	11	8	11	28	28	11	9
豚丹毒	30	38	31	26	41	15	202	45
高度の黄疸	6	5	6	5	22	9	5	8
高度の水腫	98	32	52	63	72	97	48	41
腫瘍	3	4	6	11	16	16	6	3
炎症又は炎症産物								
変性又は萎縮	23	21	30	19	20	26	6	6
サルモネラ病				18	66	14	15	7
その他								
計	453	417	496	665	971	891	767	619

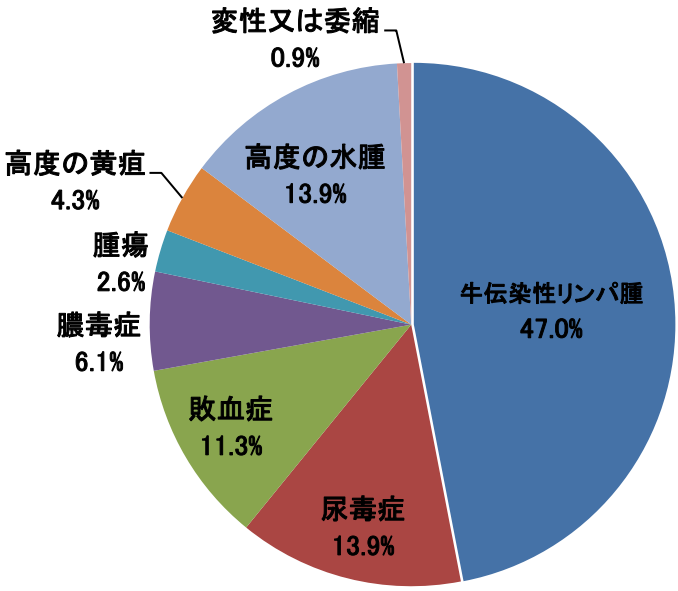
（３）牛の全部廃棄状況

月別全部廃棄頭数

	牛									
	膿毒症	敗血症	尿毒症	高度の黄疸	高度の水腫	腫瘍	その他	変性又は萎縮	牛伝染性リンパ腫	合計
4月		3	2		1				2	8
5月		3			1				2	6
6月	2	1		1	3				4	11
7月			2						7	9
8月	1		1	2					1	5
9月	1		1					1	8	11
10月	2	1	1		3	1			3	11
11月			1		2	1	1		6	11
12月		4	2		2				4	12
1月	1	1	2		2	1			3	10
2月				1	1				7	9
3月			4	1	1				7	13
合計	7	13	16	5	16	3	1	1	54	116

（子牛含む）

全部廃棄の疾病別割合

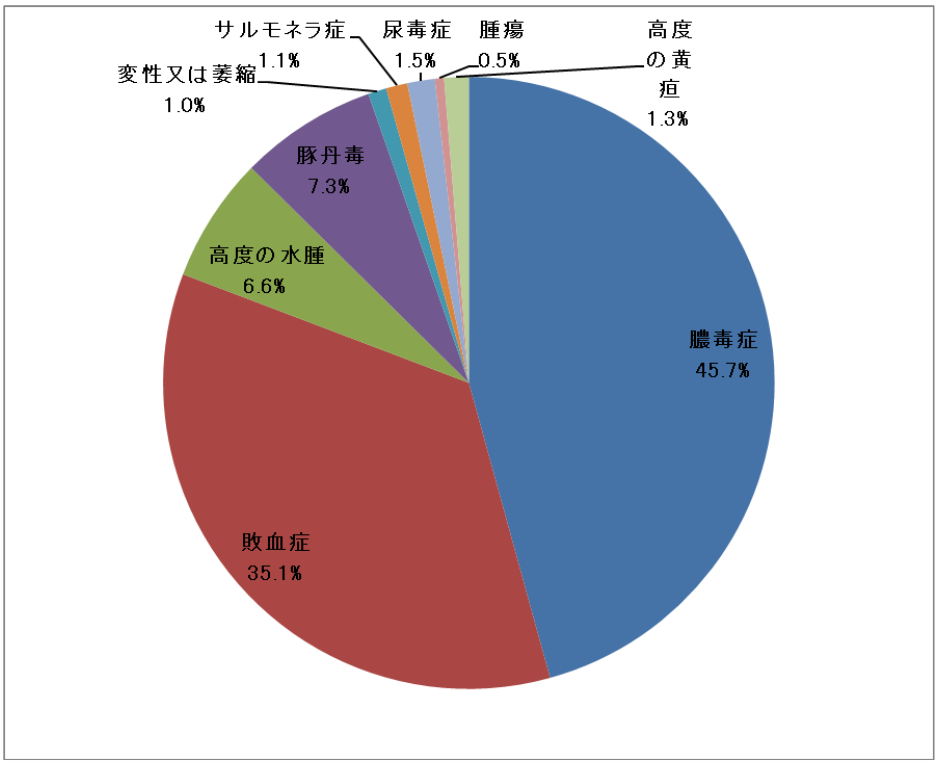


（４）豚の全部廃棄状況

月別全部廃棄頭数

	豚											
	豚丹毒	膿毒症	敗血症	尿毒症	高度の黄疸	高度の水腫	腫瘍	汚染産物による炎症又は炎症	変性又は萎縮	サルモネラ症	その他	合計
4月	14	25	11	2		4			3	1		60
5月	6	15	16			5	1					43
6月	4	13	13			3			1			34
7月	2	20	16							2		40
8月	6	24	15	2	1	1			1			50
9月	4	33	19		1	2	1			1		61
10月	1	33	17			2				1		54
11月	3	38	18		1	3				1		64
12月	4	11	20		2	2						39
1月		22	34			2	1					59
2月	1	24	20	2	1	6			1			55
3月		25	18	3	2	11				1		60
合計	45	283	217	9	8	41	3		6	7		619

全部廃棄の疾病別割合



３．精密検査実施状況

（１）枝肉の拭き取り検査

（検体数）

項目 種別	一般細菌数	大腸菌群数	腸管出血性大腸菌	サルモネラ属菌	黄色ブドウ球菌	腸内細菌科菌群
牛	55		10			55
豚	55					55
計	110		10			110

（２）抗菌性物質の残留検査

①抗菌性物質の残留疑いの検査

区分	畜種	牛	子　牛	豚	合計
検　査　頭　数		434	15	487	936
検 査 結 果（陽性）	頭　数	3	1	12	16
	枝　肉	2	0	3	5
	肝　臓	3	0	4	7
	腎　臓	3	1	11	15
処 分 状 況	食品衛生法適用	0	0	0	0
備　　考	自 主 廃 棄	2	0	3	5

②疾病疑いによる保留での検査

区分	畜種	牛	子　牛	豚	合計
検　査　頭　数		138	2	818	958
検 査 結 果（陽性）	頭　数	2	0	3	5
	枝　肉	0	0	3	3
	肝　臓	2	0	2	4
	腎　臓	2	0	3	5
処 分 状 況（検査結果が陽性の症例について）	食品衛生法適用	0	0	0	0
	他の疾病名で全 部 廃 棄	1	0	3	4
備　　考	自 主 廃 棄	0	0	0	0

③モニタリング検査結果（厚生労働省通知に基づく検査）

食　　品	検査検体数	検査項目		検査結果
		抗生物質（系統）	合成抗菌剤（薬剤）	
牛の筋肉	10	4	7	検出せず
豚の筋肉	10	4	7	

※抗生物質簡易検査４系統（ﾃﾄﾗｻｲｸﾘﾝ系、ｱﾐﾉｸﾞﾘｺｼﾄﾞ系、ﾏｸﾛﾗｲﾄﾞ系、ﾍﾟﾆｼﾘﾝ系）
※合成抗菌剤一斉分析７薬剤（ｽﾙﾌｧﾒﾗｼﾞﾝ、ｽﾙﾌｧﾓﾉﾒﾄｷｼﾝ、ｽﾙﾌｧｼﾞﾒﾄｷｼﾝ、ﾁｱﾝﾌｪﾆｺｰﾙ、ｵﾙﾒﾄﾌﾟﾘﾑ、ﾄﾘﾒﾄﾌﾟﾘﾑ、ﾋﾟﾘﾒﾀﾐﾝ）

（３）ＢＳＥ（牛海綿状脳症）の検査

（検体数）

	牛 （子牛を含む）	ＢＳＥ検査頭数	ＢＳＥ検査対象
平成 29 年度	14,936	0	24 か月齢以上の牛で神経症状等を呈する牛※
平成 30 年度	15,112	3	24 か月齢以上の牛で神経症状等を呈する牛※
令和元年度	14,339	1	24 か月齢以上の牛で神経症状等を呈する牛※
令和 2 年度	14,957	0	24 か月齢以上の牛で神経症状等を呈する牛※
令和 3 年度	14,465	0	24 か月齢以上の牛で神経症状等を呈する牛※

※平成 29 年 4 月から健康牛については廃止。24 か月齢以上の牛のうち、生体検査において神経症状等を呈するものについて、と畜検査員が必要と判断する場合に実施する。

４．輸出食肉に係る業務

牛肉の輸出状況

輸出国名／年度	タイ		マカオ		ベトナム		合計	
	件数	重量（ｔ）	件数	重量（ｔ）	件数	重量（ｔ）	件数	重量（ｔ）
平成 30 年度	54	17,8	9	1,9	11	3,5	74	23,3
令和元年度	47	21,0	17	6,6	12	4,0	76	31,7
令和 2 年度	52	24,1	8	4,1	19	8,9	79	37,1
令和 3 年度	83	38.4	14	11.4	32	22.0	129	71.8

豚肉の輸出状況

年度	タイ		マカオ		ベトナム		合計	
	件数	重量(kg)	件数	重量（kg)	件数	重量(kg)	件数	重量(kg)
令和 2 年度	0	0	1	58.6	3	329.9	4	388.5
令和 3 年度	0	0	4	1635.0	2	238.1	6	1873.1

５．その他

市民を対象とした衛生講習会を実施した。

講習会内容	対象者	受講者数	実施時期・回数
安心して食べられる食肉をめざして	市民	19 名	令和 3 年 5 月 （1 回）
安心して食べられる食肉をめざして		13 名	令和 3 年 6 月 （1 回）
安心して食べられる食肉をめざして		23 名	令和 3 年 7 月 （1 回）
安心して食べられる食肉をめざして		20 名	令和 3 年 11 月 （1 回）
安心して食べられる食肉をめざして		12 名	令和 3 年 12 月 （1 回）
安心して食べられる食肉をめざして		16 名	令和 4 年 1 月 （1 回）

第３章　　調査研究、研修等

１．調査研究部会

鹿児島県食肉衛生検査所協議会の三部会に参加し、それぞれのテーマについて調査・研究・情報交換等を行った。

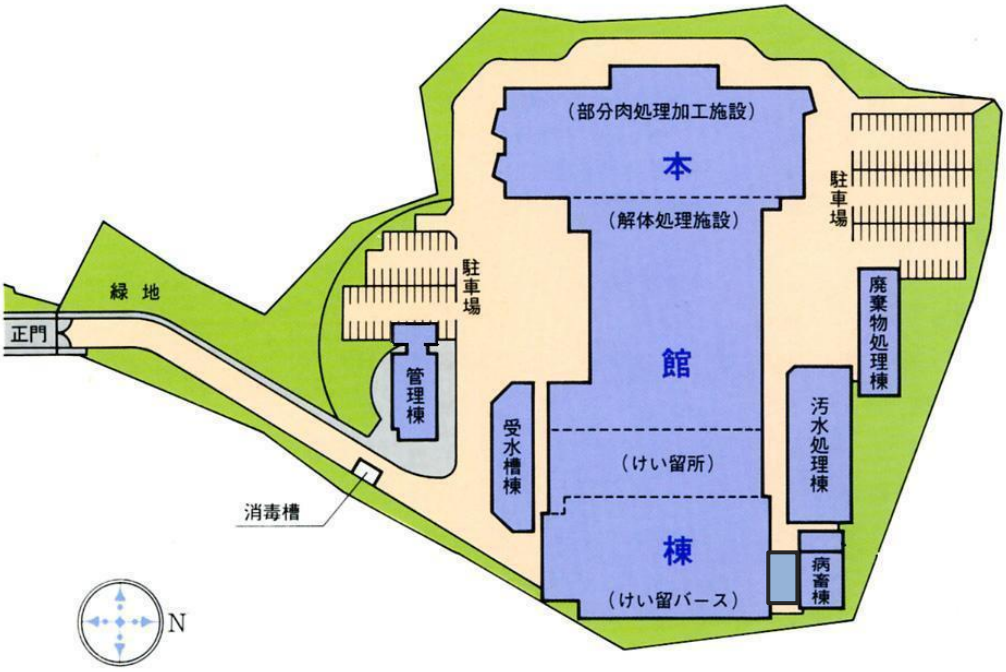
年　月	テーマ	場　所
令和３年５、11 月 令和４年２月	〈微生物部会〉 ・微生物検査カラーアトラスの追補と再編集	第１回 Ｗｅｂ開催 第２回 鹿児島県末吉食肉衛生検査所 第３回 鹿児島県獣医師会館 （書面参加）
	〈病理部会〉 ・腫瘍（牛・豚・鶏）のカラーアトラスの追補	
	〈理化学部会〉 ・牛、豚における尿毒症、高度の黄疸に関する調査	

２．職員の技術研修等

検査員の資質向上のため、研修会へ参加した。

年　月	業務研修の内容	場　所
令和３年８月	第 25 回九州・山口・沖縄病理事例研修	書面開催
令和３年 10 月	自治体職員向けＨＡＣＣＰ研修	Ｗｅｂ研修

施設配置図



令和3年度　業務概要

令和4年9月　発行

鹿児島市食肉衛生検査所
〒891-0144
鹿児島市下福元町7852
TEL 099(262)2116
FAX 099(262)4940